

# JAMCA

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association



No.14  
1997年7月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会  
 協会事務局 〒160 東京都新宿区大京町31  
 ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066  
 編集事務局 〒125 東京都葛飾区西亀有3-28-3  
 ☎03-3601-2535 FAX03-3601-2988

## 追憶！50年前の整備こんな苦労が…

財団法人 神奈川自動車学校会長 佐々木 兵衛  
 全国自動車整備専門学校協会監事

私と自動車整備との係わり合いは昭和20年11月と記憶しております。

敗戦となり空から陸へと転進し、鉄道会社のバス修理工場に居りました。学業は航空発動機でしたので、自動車についてはエンジン以外は全く知りません。毎日が新しい経験でした。

### 特攻用ボートのエンジン

そんな或る日、友人から逗子海岸に特攻用のボートが流れついているとの知らせがあり、早速同僚と見に行きました。船体はベニヤ製で破損していましたが、ニッサンのトラック用エンジンを装着していました。

終戦当時は貴重品ですので、米軍に知られない内にと、早朝リヤカーで取りに行き、工場へ持ち込みました。

早速、使用可能かどうか調べる為分解を始めました。表面は塩分によりサビがありましたが、殆ど使用してない状況なので不審に思い、全部を分解したところ、各部品に大きな欠損はありませんが、経験の無い人が組み立てをしたのでしょう、クランクシャフト、コンロッドの各メタル、各バルブの摺り合わせやピストンリングの入れ方、カムシャフトのタイミングギヤ等々、このエンジンはボートに装着しても始動回転す



ることなく放置されたのだと判りました。

ナット、ボルト等の単純な部品も吋サイズ、耗サイズとあり又、粗悪品で完全に再生できるか確信がもてませんでした。しかし現用車輛のエンジンは戦中の酷使と代用燃料、不良オイル使用でストップ寸前で、何とか整備し使用する必要があり、同僚と相談し取り組み始めました。

クランクシャフトの再研磨、メタルの摺り合わせ、コンロッドの摺り合わせ、ピストンピンの取り付け、リングの調整、バルブの摺り合わせ等、スクレイパー、ヤスリ、スパナ、ハンマー等、全て手作業によるもので、現在の整備士では理解できない工法で、又部品は全て中古品。それを再生使用しなければなりません。

例の一つに、クランクシャフトのメタル部の凹部はハンダで埋めたりシリンダーブロックとメタルの間に日本紙を入れ当たりを出し、力の平

均と回転力の確保を計る等、「漫画的」作業でした。その頃のエンジンは最高回転数が3,000位出れば立派に使用できましたので、基本作業と応用の積み重ねで約10日で組み立てが完了しました。

### 手作業で仕上げた満足感

さて試運転ですが、米軍からガソリンを調達して、キャブレターのノズルに細い針金を入れて消費を調整しクランクハンドルで廻し始めました。たしか3分位したときに「プスン」と言う弱い爆発音があり、その後見事に始動致しました。この時の喜び、感動、敗戦直後でしたが思わず万歳を三唱してしまいました。

このエンジンの始動で修理、整備の面白さ、自分の手による技術作業でできあがった時の満足感等を知り、それが私を自動車整備に向けさせた要因です。私供は昭和28年から今の整備士でなく修理工の養成を始めま (2頁左上段へ続く)

### CONTENTS

- 2面 OPINION
- 3面 北から南から
- 4・5面 特集・生涯学習
- 6面 協会トピックス
- 7面 話題・地区通信
- 8面 私の教授法・編集後記